九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

[029] 語文研究表紙奥付等

https://hdl.handle.net/2324/10240

出版情報：語文研究. 29, 1970-11-30. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

安保のとし一九七〇年もようやくおしつまってきました候ここに第二十九号をおとどけ致します。

「十月末刊行予定」というお約束は守れなくとも、せめて十一月末までには何とかしたい―これが、編集部の願いでありましたが、皆様方のお手許に本号がとどく頃は、師走の声を聞いているかもしれません。「師走」と言えば、この一年間も、大学法・安保等々、前年度以来の諸問題をかかえ、師弟ともに、走りまわったり、ふりまわされたりした事無しとしませんが、とにかく、この年内に、本誌二十八号・二十九号の二冊を刊行し得たのは、せめてもの幸せかと存じます。

これは、つまり、我々の研究室が、昨年来の非常事態から漸次、本来の姿に回復してきた事を物語るわけですが、それにつけても、御多忙中、原稿の締切りその他に関し、いろいろ御協力頂いた執筆者の方がたに、厚く御礼申し上げる次第でございます。

本号は、春日教授の労作以下五編を以て、国語史小特集と致しました。一おう、上代から中世あたりに重点をおきますが、国語史学の根底に重要な問題をはらむ辞書史論から始めて、音韻・語彙・語法の各部門に、それぞれ、興味深い論が展開されております。更に、一編の王朝女流文学論文及び、『徒然草通説批判』の書評も加わって、本号を、ますます多彩なものたらしめているはずです。中には、若手研究者などの論文もあり、今後の発展に期待すべき点も認められそうです。どうか、皆様方から、忌憚のない御批判をたまわります様、お願い申し上げます。

本当の学問とは何か、これからの大学はいかにあるべきか等の問題をめぐり、あれこれ考えさせられるこの頃です。本誌のあり方についても、いろいろ御意見頂ければ幸いでございます。さし当って、本誌の円滑な運営には、原稿及び会費の両面にわたる御協力が何よりでございます。なにぶんよろしく。

次号は明年三月末に刊行の予定。原稿は、一月末あたりまでに頂きたく存じます。

（奥　村　記）